



全国専門学校建築教育連絡協議会への参加

～広島工業大学専門学校 建築学科の教育の質を高めるために～

広島工業大学専門学校
建築学科・建築士専攻科 学科長 田中 卓

全国専門学校建築教育連絡協議会

本校は、建築に関する先端の知識や全国の専門学校での優秀な取り組みを知ることで、学科の専門性の向上を図るために、全国専門学校建築教育連絡協議会(以下:全専建協)に加入しております。この連絡協議会は、全国の専修学校及び各種学校における教育の振興を図る全国専門学校各種学校連盟の下部組織で、建築教育の質向上に向け情報交換などを行っています。

令和元年度総会

全専建協は、年に一度、総会を開催しています。会場校は西日本と東日本に分け、持ち回りで担当しています。

昨年度は西日本の京都建築大学校で開催されたため、今年度は東京都北区王子にある中央工学校にて開催されました。参加校は北海道から沖縄まで20校の建築系専門学校から64人の関係者の出席がありました。



総会では卒業作品展示会や研修会(品川開発プロジェクトにおける品川新駅(仮称)の現場説明会)についても報告されました。

また、今年度は役員改選の年で、私は、幹事に任命されました。広島のみならず、全専建協を盛り上げていけたらと思っています。

建築士法の一部改正

総会後、(公財)建築技術普及センター理事の渡邊功氏による建築士法の一部改正についての勉強会がありました。

現在、建築士事務所所属している一級建築士の割合は50代以上が60%超を占めている反面、20代は非常に少なく1%です。将来にわたり安定的に建築に携わる者を確保するため、若い受験者の増加が望まれており、今後、受験要件が見直され、若者でも受験しやすくなっていくようです。二級建築士試験においても若手建築士の確保に向け受験制度が改正され、早ければ2020年度(令和2年度)から施行されます。ただし、試験レベルの難易度を変えることはないとのことでした。

本校の取り組みを発表

全専建協総会では各校の教育活動が発表されました。今年度は東海工業専門学校金山校の石黒達哉先生による「大工技術科の実習への取り組みについて」報告され、併せて本校で取り組んだ「企業連携授業の取り組みについて」発表しました。

東海工業専門学校は大工技術科を設け、大工実習の時間を多くとっています。授業では、大工道具を使用し、ほぞ穴や継手等の初歩的な加工

から、台持ち継ぎや追掛け継ぎ、砥石台の製作等、高度な加工まで取り入れられています。二級大工技能検定の合格率は約50%で、愛知県内でも多くの卒業生が活躍しているようです。



本校における企業連携授業の取り組みについては、広島市内の工務店と連携し、実際に受けたりフォームの仕事を対象に、学生自ら考えプレゼンテーションまで行った「課題解決型学習」を紹介しました。工務店から図面データや現場写真、施主の要望書等をいただき、学生はチームを組んでリフォームプランを作成していきます。チーム内で意見がまとまらずリフォームの方向性が見えてこないグループもありましたが、集団で物事を考えることの難しさを実感させることができました。中間発表会には工務店の社長をお招きし、各グループの発表を聞いていただきました。また、この中間発表では学生全員にチェックシートを渡し、発表を聞いて気付いたことをコメントさせました。社長からいただいたコメントやチェックシートの意見も参考にしながら、完成に向け作業を進めていきまし

た。最終発表では立派なプレゼンボードも完成し、どのグループも堂々と発表していました。最終発表時も工務店の社長に参加していただきそれぞれのグループにコメントをいただきました。良いところは褒めていただき、気になる箇所はプロならこうするといったアドバイスもいただき、学生にとって貴重な時間となったことを紹介しました。

発表後の質疑応答では多くの専門学校から質問を受け、本校の取り組みに興味・関心を持たれていることが分かりました。また、総評として専門学校東京テクニカルカレッジの白井校長から学生が考えたプランは施主に報告したのか、予算は決めて取り組んだのか等の質問がありました。頂いた質問も踏まえ、授業の充実を図りたいと思います。



中央工学校新校舎見学

教育活動報告会后、中央工学校の校舎を見学しました。中央工学校は王子の地に明治42年に開校し、今年で創立110周年を迎えます。数年前から新校舎の工事に入り、この春に竣工し

ました。

建築設備実習室は「見て」「触れて」「感じて」「理解する」をコンセプトに設計され、随所に工夫がなされています。

配管設備ゾーンはトイレ空間を再現し、衛生設備以外は全てスケルトン化されていました。排水管を通る水の流れが確認でき、トラップの仕組みや排水槽までの流れも確認できました。



また、集合住宅設備ゾーンでもキッチン下部がスケルトン化され、設備機器の取まりや2重床内の配管が目視できました。その他のゾーンでは、空調ダクトがスケルトン化されたものや、消火栓箱が透明で中のホース等が確認できる工夫がされたものもありました。

建築士試験で出題される設備が特にスケルトン化されており、実際に目で見て理解させようとする思いが伝わってきました。



おわりに

私は、全専建協総会に平成16年度から出席し、今年で16年目となりますが毎年多くのことを学ばせていただいています。全国の専門学校を対象とする全専建協では、日本各地で行われる研修会で普段目にする事ができない場所も見学できます。今回の活動報告会では本校の取り組みを発表し、多くの専門学校に関心を持っていただきました。

今後も全専建協の加盟校と情報交換を行い、専門学校の教育の質向上に努めていきたいと思っています。